地域日本語教育の専門家って何するの？

―地域日本語教育スタートアッププログラムの実践から―

地域日本語教育スタートアッププログラム
シニアアドバイザー
西原　鈴子

そもそも「専門」って何？

・職業名で専門が分かる？
　弁護士は法律の専門家？
　教師は教育の専門家？
　電車の車掌は交通の専門家？
　シェフは料理の専門家？
・職場の所属で専門が分かる？
　〇〇会社総務部/人事部/経理部/営業部
　〇〇病院外科/内科/眼科/皮膚科/放射線科
　〇〇デパート紳士服売り場、食品売り場、外商担当
・その道のプロってどんな人？
　スポーツ:ゴルフ・テニス・水泳・野球・サッカー・・・・
　芸術:音楽・美術・舞踊・文学・・・・
　技術:建築・造園・工業技術・・・・

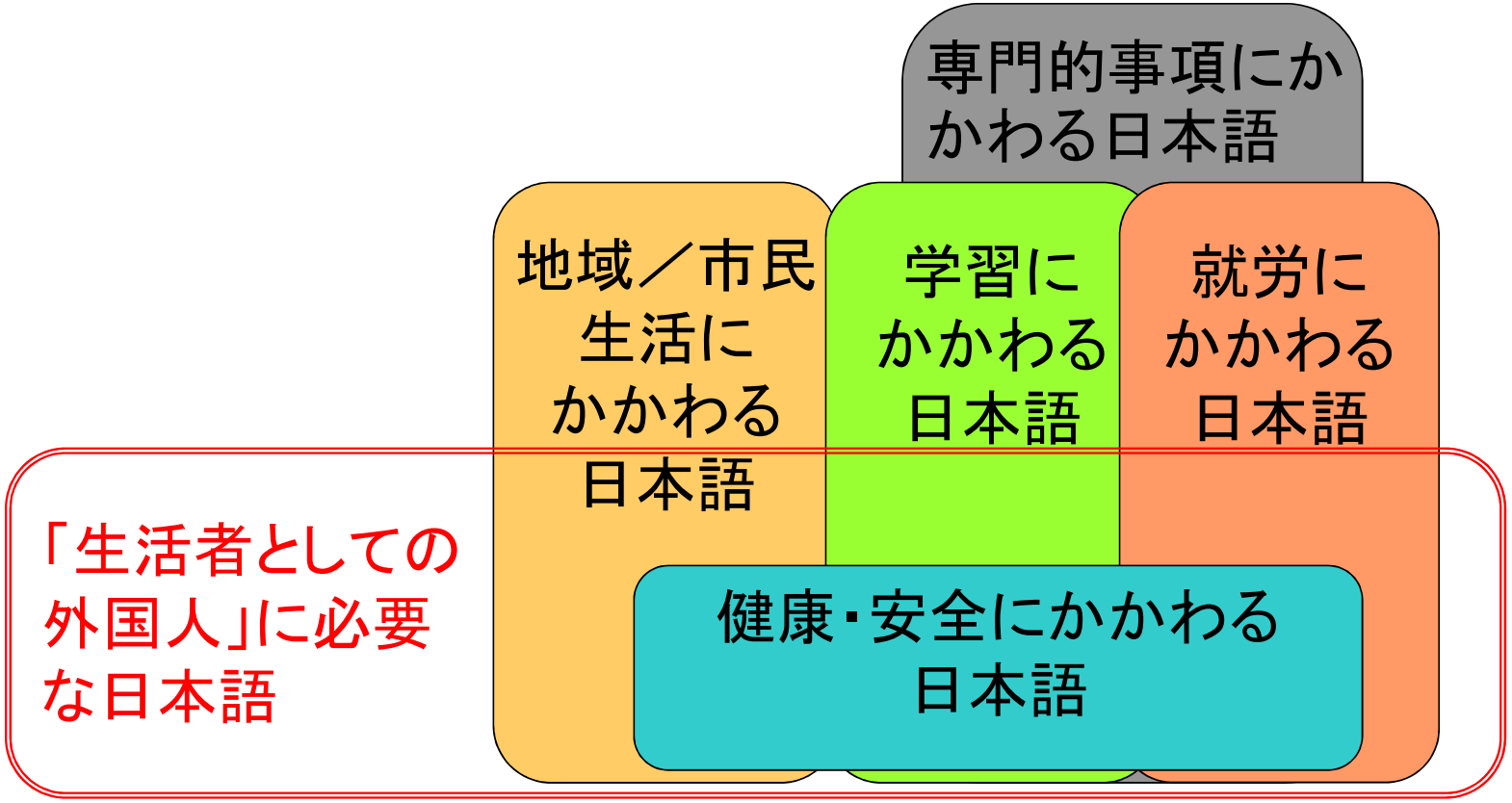
専門家ってどんな人？

- 名刺を持っている人は専門家？
- 名刺に肩書があれば専門家？
- 資格試験に合格していれば専門家？
- その道で生計を立てられれば専門家？
- 世間から認められれば専門家？
- 専門家かどうか自問自答できる？

つまるところ大切なのは・・・

・「専門家」であること、そのように認められること自体ではなく、
　　社会生活の現実的側面で「必要とされることが十分にできること」
・「専門家」であるという肩書よりも、「専門的資質」を持つこと
・ボランティアは社会参加の一形態である。有償・無償が問題なの
　　ではなく、与えられた状況で必要不可欠な働きができること
・一人で万能なアポロ的天才はいない
・協働の中で、期待に応じる資質を持つことが肝要

「生活者としての外国人」に必要な日本語の位置付け（イメージ）



「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的と目標

目的

外国人が日本語で意思疎通を図り生活できるようになること

目標

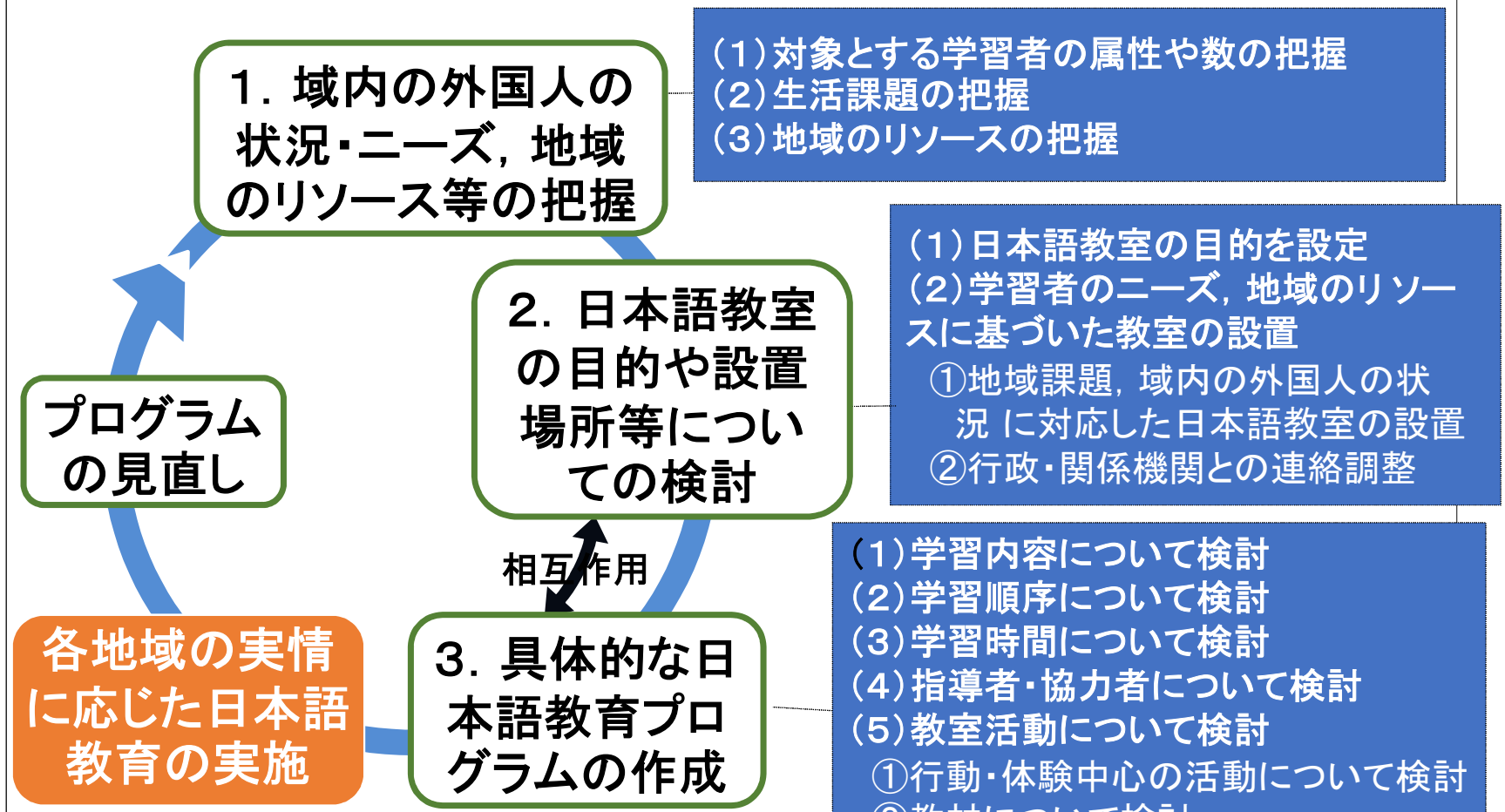
①日本語を使って，健康かつ安全に生活を送ることができるようにすること

②日本語を使って，自立した生活を送ることができるようにすること

③日本語を使って相互理解を図り，社会の一員として生活を送ることができるようにすること

④日本語を使って，文化的な生活を送ることができるようにすること

【日本語教育プログラム作成手順】



各段階で必要とされる資質（１）

段階１

- 情報収集力
- 調査力
- 報告力

段階２

- 情報分析力
- 企画力
- 交渉力
- 説得力

各段階で必要とされる資質（2）

段階3

- ニーズ･レディネス分析力
- カリキュラム設計力
- シラバス設計力
- 対学習者クラスルーム実践力
- 教育評価力
- 対学習者カウンセリング力
- コーディネート力

各段階で必要とされる資質（３）

段階４（見直し・修正）

- プログラム評価力
- 改善案作成能力
- 協調力
- リーダーシップ
- コーディネートカ

シニア・アドバイザーの仕事

- 文化庁国語課の意図と地域の企画の整合性を確認する役割
- それぞれの地域に立脚した企画の顧問としての働き
- 第三者的立場からのプログラム評価
- 地域の行政、公的機関、住民へのプログラム広報
- 「社会統合」「新規参入者のエンパワメント」「受け入れ社会による多様性の肯定的理解」を柔らかくアピールする
- ご挨拶要員